

受理番号及び 受理年月日	所 管	件 名 及 び 要 旨	提 出 者	審査結果
24年－31 (24.11.26)	教 育	<p>現行の30人学級を維持しその拡大を求めることについて</p> <p>▶陳情趣旨 国が少人数学級に踏み込まない中、学級編制基準の要件緩和により、全国の自治体では 21 世紀当初から少人数学級を実施するところが出てきた。 鳥取県においては、当時の片山知事の英断によって、2002 年度から 30 人学級が小学校 1・2 年生で導入された。その後の県教育委員会の調査によると、少人数学級は教職員や保護者から高く評価され、その効果が実証されている。そして、今や小学校 1・2 年生、中学校 1 年生における少人数学級は完全に定着したといっても過言ではない。 国は、昨年度 1 年生のみ 35 人学級にし、以後、学年進行で 9 年間かけて少人数学級を実施する計画である。これではあまりに遅々たる改善である。イギリスは初等学校 1～2 年生で 30 人学級、ロシアは初等・中等学校で 25 人学級、ドイツは 4 年生まで 24 人学級、アメリカは 3 年生まで 24 人学級と、世界の趨勢は 30 人以下学級である。 鳥取県では、従来通り今年度も小学 1・2 年生は 30 人学級を維持しており評価できる。さらに、これを他の学年へ拡大していくことは本県の教育をより発展させることになり、保護者・教職員に限らず広く県民から歓迎されると確信する。</p> <p>▶陳情事項 次の点について要望する。</p> <p>県独自で小・中学校とも現行の少人数学級を維持し、国の制度を待たず前倒しで少人数学級を拡大すること。</p>	鳥取県ゆきとどいた教育をすすめる会 代表 市 谷 尚 三 (鳥取市相生町 4 - 402 - 33) 外 1, 2 5 2 名	